

作品名：「よう!! 昔の色男」(第12回かりゆし美術展 写真の部/銀賞)
 作成者：仲道 幸子さん(うるま市)

目 次

- 2 **【特集】**
 高齢者の生きがい・健康づくり、
 社会活動への参加等を応援します！
- 4 **【サンクス運動関連】** ボランティアアコーディ
 ネーターの養成と名護市での取り組み
- 5 各種別協議会の役割について
- 6 沖縄県総合福祉センターについて
- 7 コロナ特例貸付の「償還免除」と「猶予」について
- 8 **【ふくし&〇〇】** 福祉の現場で働く人を紹介します！
- 9 福祉施設・事業所における人材育成・定着に向けて
- 10 赤い羽根共同募金運動と令和6年度事業
- 11 (一部令和5年度)に要する「民間福祉資金要望調査」の
 受付について、遺贈・相続寄付について
- 12 寄附者芳名、表紙の作者のご紹介 他

🍀 広報誌「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に共同募金配分金を充てております。

沖縄県社会福祉協議会 いきいき長寿センター は 高齢者の生きがい・健康づくり、地域活動等を応援します！

明るく活力ある長寿社会の実現に向けて、高齢者がこれまで培った豊かな経験と知識・技能を活かし、生涯を健康で、かつ生きがいをもって社会活動を活発に展開できるよう様々な事業に取り組みを進めています。

高齢者のスポーツ・文化活動の推進

★スポーツ交流大会（17種目）

ラージボール卓球 テニス 弓道 剣道
ソフトテニス ソフトボール ペタンク
マラソン ゲートボール ソフトバレーボール
グラウンド・ゴルフ ダンススポーツ 太極拳
ボウリング サッカー 選層軟式野球 水泳

★文化交流大会（2種目）

囲碁 将棋

★美術展（6部門）

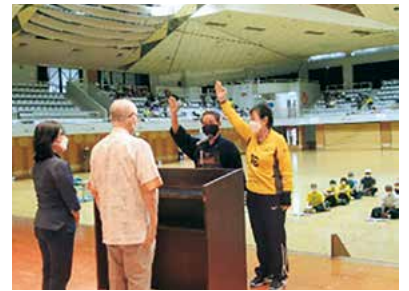
日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真

★スポーツ・文化交流大会
沖縄ねんりんピックとは、高齢者に適したスポーツ、文化活動等を通じて健康の保持・増進と参加者相互の交流を図り、生きがいと健康づくりを進め、明るく活力ある長寿社会づくりの促進を目的とする県内最大の高齢者のスポーツ・文化活動の祭典です。高齢者が生涯にわたって生きがいを持ちながら健康増進に取り組むことができるよう、各競技団体及び関係団体と連携し、スポーツ・文化交流大会を開催しています。



▲昨年度美術展の様子

★かりゆし美術展
高齢者の創作による美術作品を展示し、芸術文化活動への参加を促すとともに趣味活動や創作意欲を高め明るく活力ある長寿社会づくりに寄与することを目的に開催しています。毎年絵画や工芸品等約200点の作品が出品され、年々関心も高くなっています。また、出品作品のうち、上位入賞作品は、「全国健康福祉祭」へ沖縄代表作品として出展されます。



▲沖縄ねんりんピック・総合開会式選手宣誓の様子

第13回 かりゆし美術展

入場無料

作品展示
場所・期間

沖縄県立博物館・美術館 企画ギャラリー1・2
令和5年1月26日(木)～1月29日(日)
時間：午前9時～午後6時

部門 日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真

※美術展は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、開催を中止する場合があります。

第12回 県知事賞 受賞作品



○次年度開催・愛媛県
第35回全国健康福祉祭
えひめ大会（ねんりんピック
笑顔の愛媛2023）
2023年10月28日（土）～
10月31日（火）開催予定



▲県選手団結団式の様子
(那覇空港 YUINICHI 広場)

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は高齢者を中心とするスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な祭典です。毎年、各種競技等へ沖縄県選手団として派遣を行っており、今年度は11月12日から15日まで神奈川県へ、沖縄県から13種目88名の選手が派遣されました。

第34回全国健康福祉祭
「全国ねんりんピック」
への選手派遣について

沖縄県かりゆし長寿大学校
大運動会開催

令和4年11月26日（土）、沖縄県総合運動公園（レクリエーションドーム）において、第29回沖縄県かりゆし長寿大学校大運動会が行われました。第30期生88名は、明るく笑顔で元氣よくさまざまな競技に全力を尽くして頑張りました。



▲入場場面

プログラムは、全11種目あり、競技開始前のラジオ体操で体をほぐした後、バトミントンのラケットにのせたテニスボールを丁寧に運ぶ「スプーンレース」や「低床型玉入れ」に全員が参加して競い合いました。

次に、コールマー・パン食い競争・風船割り・バスケッ

トドリブルシュート・担架ボール運びの「五種競技」ではハプニング等もあり、笑いを誘っていました。また、男女ペアが「ほほ寄せて」息を合わせてボールを運ぶ競技も、盛り上がりを見せました。午前中最後の「親子三代リレー」では、お孫さん達もこぞってリレーに参加し、家族のチームワークを見せました。



▲ほほ寄せて場面

昼食時間前の各チーム対抗の応援合戦の披露もあり、団結力が発揮されました。その後、豪華なお弁当に家族そろって舌鼓をうつ、和やかな風景もあちらこちらで見受けられました。

午後は、懐かしい青い山

脈の曲に合わせてリズムカールに楽しく、男女ペアで「フォークダンス」を踊り、学生からアンコールの声も上がりました。「孫と玉入れ」では、多くの方が参加し、微笑ましい光景も見受けられました。メインイベントとなった「ペアリレー」では、各学科から選出された男女が持ち前の力を発揮する等、最大の盛り上がりを見せました。また、「曜日対抗大玉運び」では、学生の団結力を示す最後を締めるに相応しい競技となりました。

今回も家族の来場が多く、見学に来たお孫さんからは、祖父母世代が大活躍する運動会を見て「かつこいいい！」「おじいちゃん、がんばれ！」「おばあちゃん、すごい！」等の大きな声援が送られました。運動会前には各チーム別に練習をする光景も多く見られる等、学生全員がチームワークを結集し、楽しく生き生きと活躍した運動会となりました。

結果は、優勝（木曜）地域文化学科、準優勝（火曜）地域文化学科、三位（木曜）健康福祉学科でした。

令和5年度（第31期）
沖縄県
かりゆし長寿大学校
学生募集

■募集内容■

令和5年4月から令和6年2月の1学年制です。

募集人員96名（ただし、募集人員の内、15名は市町村協の地域推薦枠とします）原則週1回（火曜日または木曜日）午前9時半から午後12時の講義等とします。

■応募資格■

- ①県内に居住し、令和5年4月1日以前に満60歳に達している者。
- ②健康で地域活動を行う意欲があり、全期間通じて受講できる者。
- ③本校卒業生は除く。



▲講義風景 地域文化学科『わらべうた』

■受講料■

学費・年間1万5千円

※ただし、事務手続き等に係る諸経費、学習に係る教材費、その他課外活動等に係る諸経費は、別途自己負担となります。（例：4年度クラブ活動費の負担額2万1千5百円、3万4千5百円/年）

■募集期間■

令和5年2月1日（水）から令和5年2月28日（火）午前9時～午後4時まで。

■お問合せ先■

沖縄県社会福祉協議会
いきいき長寿センター
（098）887-1344

学 科	募集人数		合 計
	火曜日 コース	木曜日 コース	
地域文化学科	16名	16名	32名
健康福祉学科	16名	16名	32名
生活環境学科	16名	16名	32名
合 計	48名	48名	96名

「地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会」を合言葉にはじまったサックス運動。地域社会が変動する中、支え合う社会を築く多様な活動が行われています。サックス運動関連記事では、県社協や各種団体での取り組みや活動を紹介します。

「ボランティアコーディネーター力UPセミナー」を開催しました

本会では、10月7日市町村社協や社会福祉施設等のボランティア担当職員を対象に、ボランティアコーディネーターに関する基礎的な知識を学び、コーディネーター同士のつながりづくりを図ること等を目的に「ボランティアコーディネーター力UPセミナー」を開催しました。初めに、「ボランティアの基礎理解とボランティアコーディネーターの役割」と題して、(特非)まちなか研究所わくわく事務局長の宮道喜一氏よりお話をいただきました。宮道氏からは、コーディネーターの役割やボランティア受入時の留意点等について、様々な事例を交え、お話ししていただきました。活動報告では、うるま市社協 地域福祉課・ボランティアセンター主事の赤嶺秀幸氏から、「社協におけるコーディネーター」について、沖縄

県南部医療センター・子ども医療センターボランティアコーディネーターの伊波邦子氏から、「子ども病院におけるコーディネーター」をテーマに報告いただきました。共通するポイントとして、ボランティア本人にも丁寧にアセスメントし、継続的な活動に向けた環境整備の重要性等の助言がありました。

その後のグループワークでは、参加者同士による意見交換を行いました。参加者からは、「人と人との繋がりを生み出すためのコーディネーションの機能を発揮して活動を支援していきたい」「思いやりの種・芽を活かし、花を咲かすために必要なことを考え、思いやりの花が咲くという言葉が



名護市社協における「災害ボランティアセンター設置・運営訓練研修会」の取り組み

大規模災害発生時、社協による被災地域の支援活動の一つに、災害ボランティアセンター(以下、災害VC)があります。本県は、島嶼県のため、外部支援者が応援に入るまでの間、地域の関係者との協働により設置・運営を行う必要があります。

とても印象に残りました」といった感想が寄せられました。本会では、引き続きボランティアコーディネーターの資質向上と、ネットワーク構築を通して、ボランティア活動の推進に向けて支援を展開していきます。

名護市社協では、9月29日、市内経済団体や地域包括支援センター、自治会長、民生委員、学生等を対象にした「災害VC設置・運営訓練研修会」を開催し、109名が

参加しました。市社協では、被災住民への円滑な支援ができるよう、訓練前に青年会議所等と災害支援協定を締結していたこともあり、地元企業関係者の関心の高さを伺い知ることができました。今回の訓練は、参加者が災害VCの各セクション(受付班やオリエンテーション班等)に分かれて、運営を体験しました。訓練を通して、災害VCの運営ノウハウの共有だけでなく、平時から協働して地域福祉活動に取り組



災害VC設置・運営訓練の様子

む必要性について共通理解を深めることができました。自然災害は、私たちの生活基盤を脅かし、地域のセーフティネット機能も失われ、福祉的な課題や問題が顕在化します。災害時における被災住民の「命と暮らしを守る」社協の取り組みは、地域福祉活動の延長線上にあると位置付けています。そのためにも、社協は平時から地域関係者とのネットワークによる要援護者への見守り・相談支援体制づくりを着実に進めていくことが求められています。

各種別 協議会について

県社協では、各種別の社会福祉事業について、全県的連絡調整の方策を講じ、調査・研究・協議を行い、能率的な事業実施を図ることを目的に、次の7つの種別協議会を設置しています。

- ① 保育協議会
- ② 社会福祉法人経営者協議会
- ③ 地域包括・在宅介護支援センター協議会
- ④ 身体障害児者施設協議会
- ⑤ 心身障害児者施設協議会
- ⑥ 児童養護協議会
- ⑦ 老人福祉施設協議会

各種別協議会の活動の一環として、会員をはじめとする社会福祉施設等の役職員に対して現任訓練（研修会）を実施し、職員の資質向上とサービスの質の向上に努めています。



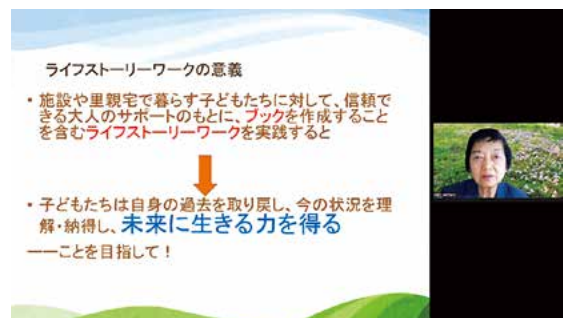
児童養護協議会

県児童養護協議会では、第39回沖縄県児童養護研究大会をオンラインにて開催しました。

行政説明、記念講演「子どもとライフストーリーを分かち合う〜過去・現在・未来を紡ぐ〜（講師：大阪ライフストーリー研究会 主宰 才村眞理氏）」は、11月7日から12月2日までオンデマンド配信とし、第1〜3研究部会は、部会ごとに日を分けてライブ配信により実施しました。

講演で、「ライフストーリーワークとは、施設や里親宅で暮らす子ども達に対して、信頼できる大人のサポートのもとに『誰から生まれたのか？ なぜ、今ここにいるのか？』これからどうなるのか？』などを子どもの人生に組み入れられるよう、話し合いの場を提供する作業（プロセス）により、ブック（生い立ちの記録）を作成すること。そして『子ども達は、自身の過去を取り戻し、現状を理解・納得し、未来に生きる

力を得る』ことを目指すものである」と才村氏より講義いただきました。



▲県児養協・研究大会

身体障害児者施設協議会・心身障害児者施設協議会

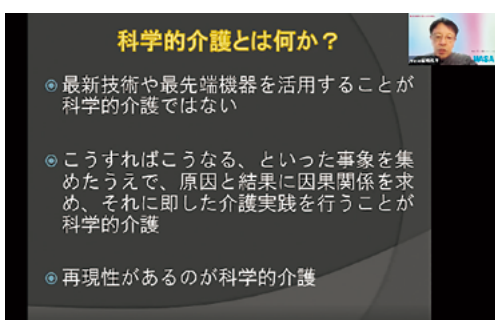
県身体障害児者施設協議会（以下「県身障協」）、県心身障害児者施設協議会（以下「県心身協」）では、年1回「課題別研修会」を実施しており、今年度は、人材育成・定着に係る研修をオンラインにて実施しました。

◆県身障協（10月19日開催）

県身障協の課題別研修会では、介護職員が、自分の仕

事の大切さを改めて確認するとともに、誇りを持って働き続けられるように、北海道介護福祉道場・あかい花代表の菊地雅洋氏より「科学的介護について〜根拠ある介護実践から得られるもの〜」と題し、科学的介護の実践事例を基に科学的介護（根拠ある介護）の効果や、利用者に対する言葉遣いの大切さについて虐待事例や介護職員へのエールも交えながら講義いただきました。

参加者は、根拠ある介護の重要性について学び、介護のプロとして、利用者との接し方を再確認しました。



▲県身障協・課題別研修会

◆県心身協（11月18日開催）

県心身協は、一般社団法人

沖縄県知的障害者福祉協会との共催で課題別研修会を開催しました。

本研修では、管理職・主任・先輩職員等の指導育成層を対象に、ADERS 代表の山崎正徳氏より「指導育成層へのススメ！ 良い距離感が生み出す安心安全な人間関係の作り方」と題し、指導育成層のストレスが倍増する理由、人間関係の距離感を保つコツ、ネガティブな感情との向き合い方等について講義いただきました。

参加者は、自分自身の価値観を見つめ直すとともに他者（部下や利用者等）との関わり方について学ぶことができました。

今後の取り組みについて

種別協議会では、引き続き、会員のニーズや制度・施策の状況等も踏まえて研修企画を行い、社会福祉施設等の役職員の資質向上及びサービスの質の向上に取り組んでいきます。

沖縄県総合福祉センターについて 知ってもらおう

沖縄県総合福祉センターについて

沖縄県総合福祉センター（以下、本センター）は、県民の社会福祉に対する理解を深め、福祉活動への積極的な参加を促進するための総合的な拠点施設として、平成15年に沖縄県によって設置されました。

多目的ホール、会議室、研修室等の貸館施設や、社会福祉関連の図書、資料、紀要及び専門誌等を所蔵する社会福祉ライブラリーを利用できます。

立地環境について

本センター周辺は、昭和24年に戦争孤児に対する児童福祉施設として、沖縄厚生園（現・沖縄県立石嶺児童園）が首里石嶺町に建設されました。当施設の建設後、福祉施設が同地域に集まりました。戦後から現在まで、福祉施設と地域住民の交流や福祉への理解が深い地域として、首里石嶺町は「石嶺福祉

村」と呼ばれています。

県民が使いやすい機能

各階に車椅子対応トイレを設置する他、東棟1階の多目的ホール側には、オストメイト対応トイレを設置しています。

駐車場は、車椅子利用者だけでなく、障害者や高齢者歩行困難な方、妊産婦やけが人などが、優先的に駐車できる「沖縄県ちゅらパーキング（障害者等用駐車区画）利用制度」を令和4年7月から導入しました。

現在、経年劣化により故障頻度が増した空調設備の一斉更新工事を行っています（工事期間：令和4年11月～令和5年3月）。



沖縄県総合福祉センターキャラクター「ガジュマルキジムナー」です。

車椅子貸し出しについて

車椅子が一次的に必要な方に対して、車椅子の貸し出しを行っています。

○貸出期間・必要日数（10日以内）

○貸出料金・無料

○使用例

- ・怪我をして一時的に車椅子が必要になった方
- ・車椅子が必要な家族と旅行に行く方 など

施設の使用方法

本センターの利用については、事前に仮予約等の申請が必要となりますので、利用料等とともに、本センターのホームページまたは電話にて御確認ください。

《問い合わせ先》

沖縄県総合福祉センター管理室
電話（098）882-5811



センター入口の梅の木。梅の木の成長を一緒に見守ってください。

令和4年度

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

ケガの補償	保険金の種類	プラン		
		基本プラン	天災・地震補償プラン	【新設】特定感染症重点プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術	入院中の手術	65,000円	
	保険金	外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外*		初日から補償
	地震・噴火・津波による死傷	×	○	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料		350円	500円	550円

*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03 (3349) 5137
受付時間: 平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667
受付時間: 平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ21-10723より抜粋して作成〉

生活福祉資金コロナ特例貸付 『償還免除』と『猶予』について

県社協では、新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業等で減収のあった世帯を対象に、「緊急小口資金」「総合支援資金」のコロナ特例貸付を令和2年3月25日から令和4年9月30日まで実施してまいりました。その貸付件数は15万件を超え、貸付金額は596億円に上っています。

コロナ特例貸付では、償還時においてなお減収が続く住民税非課税世帯等に対して償還を免除する仕組みが設けられています。また今回、償還が困難な方への猶予が新たに設けられました。償還免除には該当しなかった方で、支払いが厳しいという方は社協へご相談ください。

『償還免除』に該当する方は下記のとおりです。

■現在受付けている免除対象の貸付は、令和4年3月末までに申請した「緊急小口資金」と「総合支援資金（初回）」です。

■申請期限(令和4年9月30日)を設けていますが、個別の事情などにより申請ができなかった方に対する申請は、継続して受付けています。お早目の申請をお願いします。

免除要件	申請に必要な書類
①借受人および世帯主の令和3年度または令和4年度の住民税が「均等割・所得割いずれも」非課税	1. 免除申請書(様式1-1) 2. 住民票※世帯全員の記載があり、世帯主の氏名・続柄の記載があるもの 3. 借受人および世帯主の同年度の非課税証明書
②生活保護を受給している方	1. 免除申請書(様式1-2) 2. 生活保護受給証明書
③精神保健福祉手帳(1級)または身体障害者手帳(1級または2級)の交付を受けている方	1. 免除申請書(様式1-2) 2. 該当する手帳のコピー

免除に関する問合せ先

沖縄県社会福祉協議会 特例貸付コールセンター **098-975-9586** 平日(月～金) 9:00～17:00
土日祝日 休業

償還が困難な方への『猶予』が新設されました

◆市町村社協等による面談(生活相談)の結果、借受世帯が下記の要件にあてはまり、要件を証明する書類が提出できる場合、返済猶予の申請を行うことができます。

◆猶予の要件

	要件	提出書類
①	地震や火災等に被災した場合	被災証明書、り災証明書等の被災したことが分かる書類
②	病気療養中の場合	診断書など病気療養中であることが分かる書類
③	失業又は離職中の場合	退職証明書、離職票など失業または離職中であることが分かる書類
④	奨学金や事業者向けローン(住宅ローン除く)など、他の借入金の返済猶予を受けている場合	他の借入金の返済猶予を受けていることが分かる書類
⑤	自立相談支援機関に相談し、返済猶予を行うことが適当であるとの意見があった場合	自立相談支援機関からの意見書 ※生活状況などをお伺いし、必要な書類を提出していただくことがあります。
⑥	上記①～⑤と同程度の事由によって返済することが著しく困難であると認める場合	市町村社会福祉協議会からの意見書 ※生活状況などをお伺いし、必要な書類を提出していただくことがあります。

◆猶予期間 1年間

◆申請・ご相談先 特例貸付を借入れした市町村社会福祉協議会へ

福祉の現場で働く人を紹介

〈特別養護老人ホームで働く〉

3つの顔を持つ介護福祉士

福祉の現場で働く人を紹介いたします。

今回ご紹介するのは、特別養護老人ホームおもと園（那覇市）の介護福祉士の宜保枝里香さんです。

※特別養護老人ホーム（以下、特養）とは、寝たきりや認知症等により、在宅介護が困難である高齢者のうち、原則要介護3以上の方が入居できる介護老人福祉施設です。

取材先のご紹介

特別養護老人ホームおもと園（以下、おもと園）をご紹介します。

おもと園は、医療・社会福祉・学校関連の事業を展開するおもと会グループが運営しています。病院併設の老人ホームとしては県内唯一の施設です。那覇市天久の高台に建ち、全室個室で各部屋からは那覇の街並みや東シナ海が望め、開放感ある造りになっています。

《特別養護老人ホームおもと園》
ホームページ URL：
<https://omotokai.or.jp/jigyou/262/#sec2>

『介護福祉士』として

介護福祉士とは、介護を必要とする方々の様々な生活行為・生活動作を支援し、支える知識と技術を有する専門資格を持った職員を指します。

宜保さんは、おもと園で『介護福祉士』として、約12年務められています。

介護の仕事に就こうと思ったきっかけについて、「学生のとき、祖母が倒れ、病院に運ばれましたが、動きづらそうな祖母を見ることしかできませんでした。そのとき、祖母を介助する職員達を見て、『かっこいい！おばあちゃん孝行できるのはこれだ！』と思ったのがきっかけです」と、宜保さんは語ってくれました。

仕事をする上で大事にし

ていることを伺ったところ、「利用者一人ひとりの個性を活かせるよう、小さな意思表示や変化を見逃さないような心がけています。特養は『終の棲家』となる場合もあるので、利用者が最後まで『自分らしさ』を失わないような生活にしたいと思っています」と熱い思いをお話してくれました。

おもと園の呉屋徹施設長は「明るく、利用者の観察に長けた職員。利用者の変化や気持ちに気づき、他職員への共有やその後の行動が早い」と普段の宜保さんの様子を語ってくださいました。

『格闘家』erika♡として

宜保さんは、格闘技団体R I S Eで活躍する『格闘家』としての顔も持っています。

出産や子育てに追われ、産後うつや摂食障害等を経験し、「自分のしたいことができている感じがしない」という感覚に陥っていたとき、偶然キックボクシングジムを見かけ、第3子出産後入会したそうです。

入会後、世界戦を控えた先輩の姿を見て、「私も本気でやる！」と感化され、目標を

もってトレーニングに取り組みようになりました。

アマチュアの試合等で経験を重ね、2021年1月にミネルヴァ・アトム級日本王者になった後、格闘技団体R I S Eを主戦場に移しました。

スタミナと左ストレート、膝蹴りを武器に、「第2代R I S E QUEENミニフライ級王者」、「元JKFミネルヴァ日本アトム級王者」のタイトルを保持する選手となりました。

コロナ禍の活動について聞くと、「県外への遠征等、介護職として参加することを悩む時期もありましたが、施設長や他職員と相談し、対策を講じた上で、仕事も格闘技も両方できる方法を一緒に考えてもらいました」とお話ししてくれました。取材を通して、おもと園全体でerika♡さんとしての活動を支えている様子が伝わりました。

3つの顔の両立と福祉への思い

3児のシングルマザーでもある宜保さんは「遠征や夜勤のときは、子ども達が自主的に家事をしたりして、私が

やりたいことを、子ども達がやらせてくれていると感謝しています。その分、一緒にいるときはより優しく接したり、子ども達にも好きなことをさせてあげたいです」と子育てについても教えてくださいました。

宜保さんに3つの顔を両立させることについて聞くと、「両立できているかわかりませんが、『自分らしく』できていると感じています。全てに全力です」と答えてくれました。

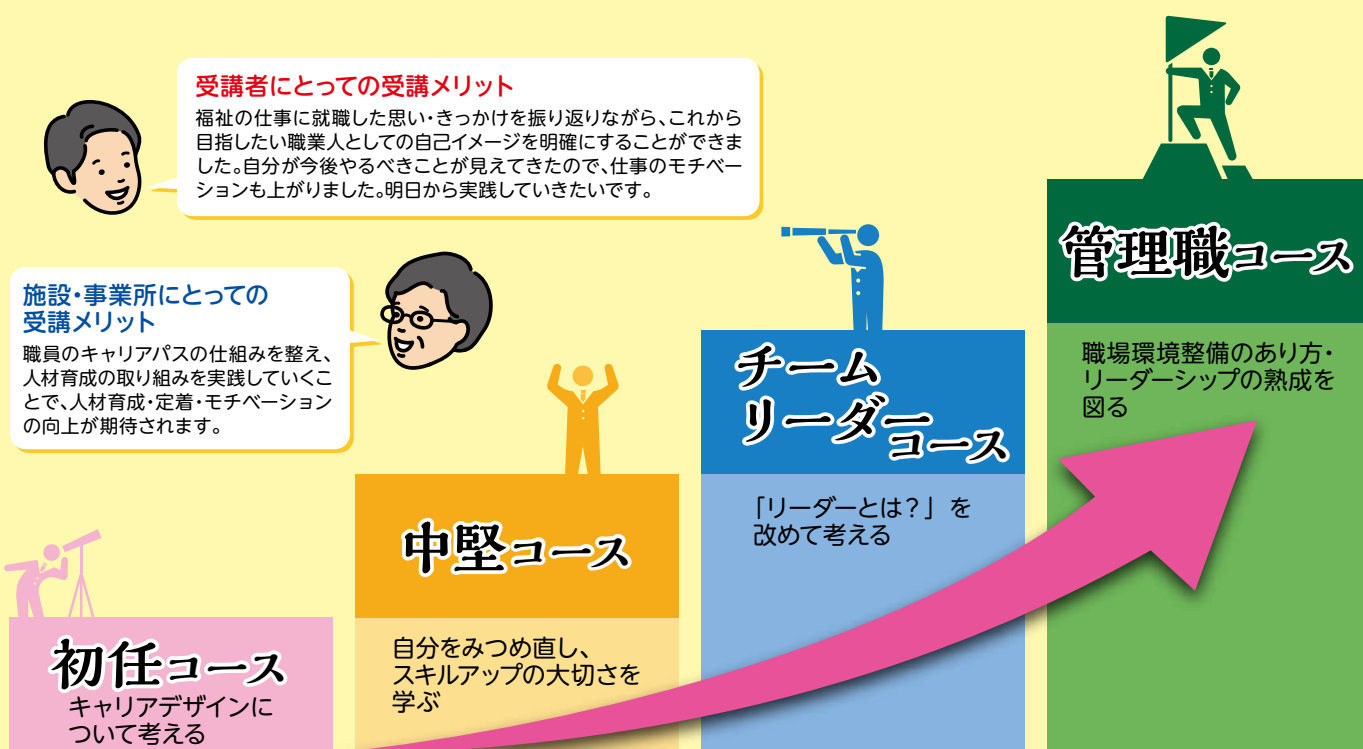
今後、復帰戦や世界戦を見据えている宜保さんは、「チャンピオンになっても介護の仕事は続けます。仕事をしながらでも諦めなければ、できることを証明し、利用者や福祉従事者、シングルマザー達に勇気を与えられる存在になりたい」と最後まで明るく、力強く語ってくれました。



福祉施設・事業所における 人材育成・定着に向けて

—福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程のご案内—

沖縄県福祉人材研修センターでは、福祉職員のキャリアパスに応じた資質向上を段階的・体系的に図るとともに、各施設・事業所のキャリアパスの整備や職員育成施策の確立・実施の支援を目的に本研修を実施^{※1}します。ぜひご受講ください。



※1 今年度、本県では「初任者コース」および「チームリーダーコース」を開催中。

本研修の特徴

- ①あらゆる事業種別（高齢・障害・保育・児童等）・職種を横断した福祉職員全般が対象。
- ②研修内容の標準化（共通テキスト）による全国共通の基礎的研修。
- ③修了証の交付（全国共通のキャリア証明に）
- ④県内では、これまでに初任者コース 143名（R1～開始）、中堅コース34名（R3のみ実施）、チームリーダーコース 222名（H30～開始）で延べ399名が受講。

詳しい内容についての
問い合わせ先

沖縄県社会福祉協議会 福祉人材研修センター

TEL 098-882-5703 FAX 098-887-1071

HP <http://www.okishakyo.or.jp/kensyuu/>



僕のヒーローアカデミア × 赤い羽根共同募金



赤い羽根共同募金

© 堀越耕平 / 集英社・僕のヒーローアカデミア製作委員会



Art by ちのち・Citypop Future Mac a, INC. www.piapro.net piapro

各地域においては福祉に関わる様々な課題が顕在化していますが、こうした課題を解決するため、地域住民によるボランティア活動が盛んに行われており、住民同士の支えあいの活動は、私たちの生活にかけがえのないものとなっています。

「赤い羽根共同募金」は地域での民間福祉活動を行う住民ボランティアを応援する募金です。近年は若い世代をはじめとする多くの方々へ関心をもっていただくきっかけになるよう、アニメ等とのコラボレーションにも取り組んでおり、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりを目指して実施しています。

沖縄県共同募金では1,000円以上募金していただいた方に、協力のお礼として上記イラストのクリアファイルを進呈しております。(数に限りがありますのでご希望に添えない場合がありますことをご了承ください)

令和6年度（一部令和5年度）民間福祉資金 募集要綱			
資金種別	対象年度	対象事業	対象団体
中央競馬馬主社会福祉財団	令和5年度	障がい者(児)、老人、母子及び児童福祉事業にかかる車両・備品・施設の整備など	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人(市町村社協は原則対象外) 公益社団法人 公益財団法人 NPO等
赤い羽根共同募金(広域)	令和6年度	地域の福祉課題を解決するための事業で、更生保護事業・研修会・大会開催や派遣・施設的环境整備や車両および備品整備など	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人 公益法人 一般社団法人 財団法人 NPO法人等
沖縄県社会福祉振興基金	令和6年度	社会福祉団体の活動、研修事業など	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人 公益法人 一般社団法人 財団法人 NPO法人等

※令和5年3月下旬に詳細をHP公開 ※提出期限は5月1日(予定)



令和6年度事業(一部令和5年度)に要する「民間福祉資金要望調書」の受付について

各福祉団体が計画する令和6年度(一部令和5年度)事業に対し、沖縄県共同募金会と沖縄県社会福祉協議会は助成を行います。助成決定は令和6年3月となりますが、その前に(ごだけ)の要望があるのか(事業内容が適正であるか)を確認するため「民間福祉資金要望調書」を提出する必要があります。

受付は令和5年3月下旬を予定しており、ホームページにて詳細を掲載します。



ご遺贈・相続寄付をお考えの皆さまへ

あなたのまちの未来のために、遺しませんか。

遺贈とは、

あらかじめ遺言などでご自身の意思を示し、財産の一部またはすべてを本来の相続人以外の特定の人や団体に贈与するものです。

相続寄付とは、

相続人のご意思で、相続された財産の一部または全部を相続人以外の人や団体に寄付するものです。

遺贈・相続寄付とも、共同募金会へのご寄付の場合、寄付額が相続財産から控除されます。

共同募金会では被相続人の財産や、相続された財産をお預かりし、愛着ある地域の福祉のために役立ててほしいというご意志にかなうよう福祉団体やNPO、ボランティア団体の支援に活用いたします。

また、お預かりした財産を活用する都道府県を指定することや、分野の指定（例：子どもたちの健やかな成長のため、高齢者のため 等）をしていただくことも可能です。

今、私達のまわりでは、孤独死やひきこり、虐待などの増加、経済的に困窮状態にある家庭の問題など、様々な生活課題が広がっています。

一方、そのような状況にある人々への支援活動も活発になっておりますが、その多くは自己資金や寄付金で賄っているため、財政面で不安定な団体が多く、共同募金などの助成が強く期待されています。

共同募金会では、皆さまからお預かりした貴重な財産を、これら様々な福祉課題解決の取り組みにつなげてまいります。

共同募金は、じぶんのまちを良くするしくみです。皆様のご芳志で、誰もが、いきいきと心豊かに暮らせるまちづくりをご支援くださいますようお願い申し上げます。

遺贈・相続寄付パンフレットのダウンロードはこちらから
(中央共同募金会作成)

<https://www.akaihane.or.jp/wp/wpcontent/uploads/59bf642091253dfea96ff4a3954bec70.pdf>



遺贈・相続寄付に関するご相談は、お気軽に共同募金会までお問い合わせください。

沖縄県共同募金会

那覇市首里石嶺町 4-373-1
沖縄県総合福祉センター西棟 4 階
TEL (098) 882-4353
FAX (098) 882-4270
<https://www.okishakyo.or.jp/kyoubo/>



社会福祉ライブラリーから

本の紹介

ライブラリーに『沖縄紙芝居』の寄贈がありました!

- 『とんとんからりとんからり』
- 『カチャーシーをおどろうよ』
- 『かりゆしの海』

寄贈者：鎌田 佐多子様
(沖縄女子短期大前学長)

寄贈者・鎌田様から、「私が脚本を書いた『とんとんからりとんからり』は絶版になっていましたが、日本復帰50周年を機に出版社と協力して500部限定で再度発刊することとなりました。寄贈した3作品を通して、多くの子ども達や県民が沖縄や紙芝居の良さに気づき、共有する機会にしてほしいと考えています」と御挨拶をいただきました。

沖縄を題材にした3作は、鎌田様が戦中戦後の沖縄に思いを寄せてくれた紙芝居作家や県内の仲間とともに童心社から発刊された作品です。

【寄贈品の『沖縄紙芝居』はこちら(※一部)】



沖縄ビル・メンテナンス株式会社様(10.11)



【写真左から2人目】
沖縄ビル・メンテナンス株式会社
代表取締役社長 幸地 均 様
【写真左から1人目】
沖縄ビル・メンテナンス株式会社
取締役総務部長 大嶺 隆 様
【写真右から2人目】
本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治

小日山 幸子様(10.13)



【写真左】
小日山 幸子 様
【写真右】
本会 常務理事 嘉陽 孝治

(一社)沖縄県電気管工事業協会
青年部様(11.15)



【写真左から3人目】
(一社)沖縄県電気管工事業協会
青年部 部長 新垣 昌彦 様
【写真左から2人目】
(一社)沖縄県電気管工事業協会
副部長 仲間 幹 様
【写真左から1人目】
(一社)沖縄県電気管工事業協会
副部長 高江洲 昌太郎 様
【写真右から2人目】
本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 事務局長 高良 正樹

華道専心池坊 沖縄支部様
(11.21)



【写真右から2人目】
華道専心池坊沖縄支部
支部長 伊敷 康月 様
【写真左から3人目】
華道専心池坊沖縄支部
副支部長 國頭 清雅 様
【写真左から2人目】
華道専心池坊沖縄支部
副支部長 謝花 雅蓉 様
【写真左から1人目】
華道専心池坊沖縄支部
教授者会会長 佐久本 陽水 様
【写真右から1人目】
本会 事務局長 高良 正樹

アフラック沖縄県
アソシエイツ会様(11.29)



【写真左から2人目】
アフラック沖縄県アソシエイツ会
会長 山田 晋 様
【写真左から1人目】
アフラック沖縄県アソシエイツ会
事務局長 伊吹 恒平 様
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治

寄附・寄贈者芳名(10月1日~11月30日)

「寄附・寄贈いただき、誠にありがとうございました。」

編集後記

新たな年が始まりました。皆様にとって幸多き年になりますよう願っております。気持ち新たに一緒に頑張りましょう!



※県社協への寄附については、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは総務企画部まで

●写真掲載以外の
寄附・寄贈者芳名
(11月11日)
●沖縄生麺協会様

仲道 幸子さん(74)は、旅行が好きで、記念に撮影する際デジカメを知った方がいかなうと、カメラ教室に通い始めました。現在は同好会へ通い、腕を磨き続けているそうです。

今回の作品のモデルは、仲道さんの父親です。帽子が好きなお父様をお出かけ前に撮影したものです。

「高齢の父親と一緒にいるときは、いつもカメラを持っていきます。今この瞬間を大切にしたい」という思いから、いつもカメラを持ち歩いています」という仲道さん。

「写真の公募展に継続して応募し、安定して入選をしたい」と今日もカメラを手に出かけています。

カメラの他に、『毎日の楽しい日課』としてジムに通う仲道さん。

今日も素敵なお一枚に出逢えますように♡

作品名 表紙の作品
「よう!! 昔の色男」



作成者：仲道 幸子さん